

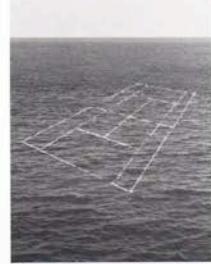
RECORDING NO.5 一通路一

Piece I 痕跡

Piece II 部屋

Piece III 通路

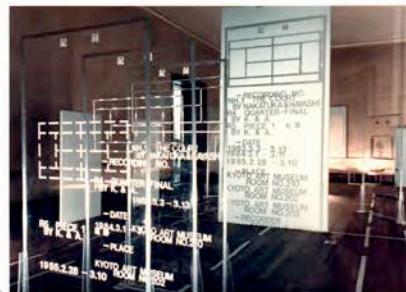
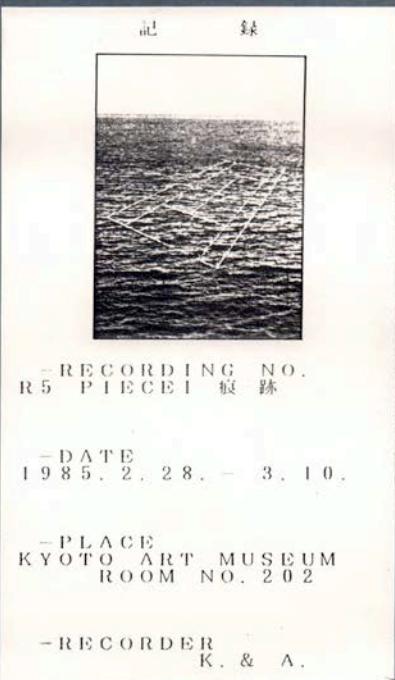
Piece I 「痕跡」
—思い出すこと 或いは 忘れること—



・・・途切れ途切れに 消え行くコートのライン
・・・薄れゆく 痕跡
・・・薄れゆく 記憶

<設置物>

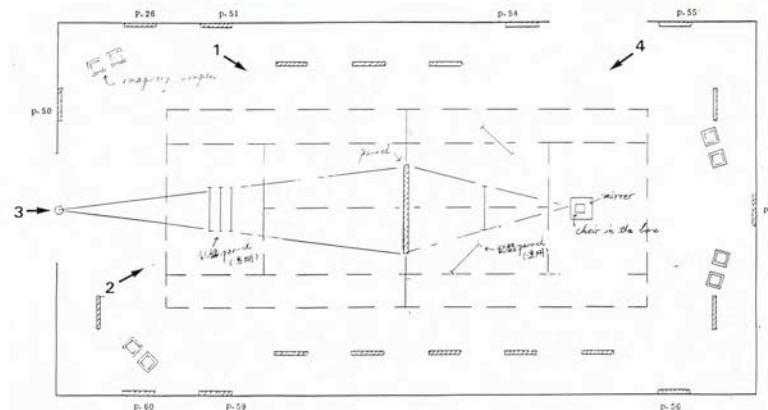
- ・R.1からの引用／痕跡・・・コートのライン(床面)
数枚のパネル(壁面)
- ・記録パネル・・・sh.1 "THE COURT"、sh.4 "THE QUARTER FINAL"、sh.5 "THE ROAD"
- ・R.5の三箇所(Piece I, II, III)
(透明アクリル板、床面)
- ・Imaginary sample・・・標本箱内に写真etcと添付
(床面)



1



2



3



4

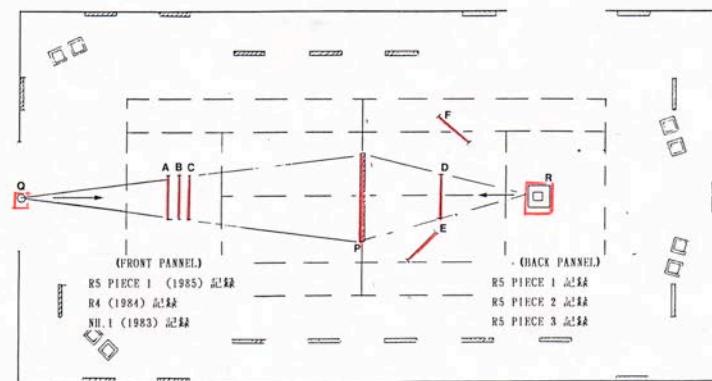
記録 (photo)

SET 1 記録 PANNEL

SET 2 R.4 (Recording No.4) からの 引用／痕跡

SET 3 i m a g i n a r y s a m p l e

SET 1 記録 PANNEL



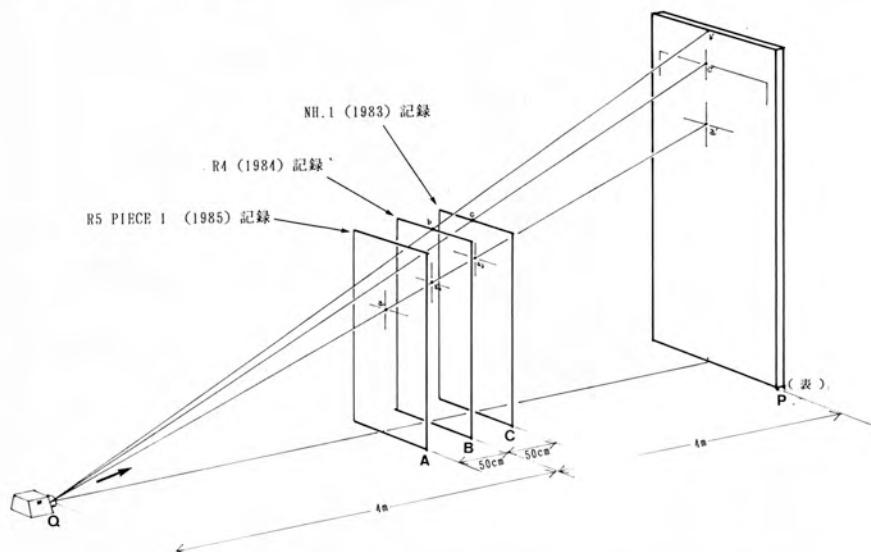
大パネル × 1 (P)

透明パネル × 6 (A ~ F)

プロジェクター (Q)

鏡面上のケース、その中に椅子 (R)

-- FRONT PANNEL --



P : パネル (sky blue) 2m×4m \times 50mm
 A ~ C : 透明アクリル板に drawing 1m×2m \times 5mm 下図参照
 Q : プロジェクター . . . パネル A,B,C に描かれた图形、文字を
 パネル P に投影

記録
F T 二 千 二 七 口
I ト 一 + - + I
ヒ 二 二 土 二 二 口
R5 PIECE 1 痕跡 BY K. & A.
1985. 2. 28 - 3. 10
KYOTO ART MUSEUM ROOM NO. 202

記録
RECORDING NO
R4 QUARTER-FINAL BY K. & A.
- DATE 1984. 3. 1 - 3. 11
- PLACE KYOTO ART MUSEUM ROOM NO. 202
- RECORDER KOSUGI & ANDO

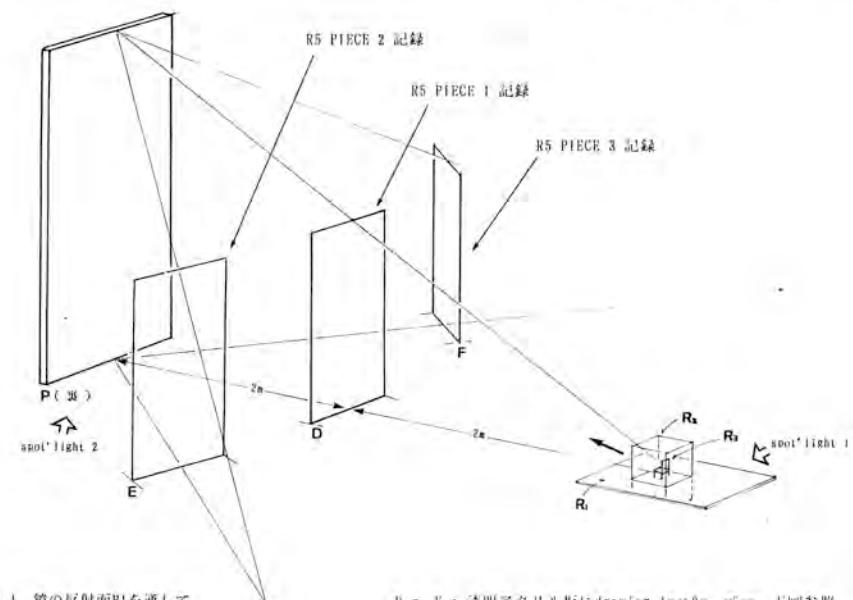
記録
NHI THE COURT BY NAKATUKA & HAYASHI
1983. 3. 3 - 3. 13
KYOTO ART MUSEUM ROOM NO. 210

A

B

C

-- BACK PANNEL --



spot light 1 箇の反射面を通して
 パネル D の图形、文字を P に投射
 spot light 2 中央パネル Pへの照射により
 パネル D, E, F の图形、文字を浮かびあがらせる

D ~ F : 透明アクリル板に drawing 1m×2m \times 5mm 下図参照
 R1 鏡面 50cm×70cm
 R2 透明アクリルケース 20cm×20cm×20cm \times 5mm
 R3 ミニチュア椅子 10cm

記録
R5 PIECE 1 痕跡
- DATE 1985. 2. 28 - 3. 10
- PLACE KYOTO ART MUSEUM ROOM NO. 202
- RECORDER K. & A.

記録
R5 PIECE 2 痕跡
- DATE 1985. 3. 5. - 3. 10.
- PLACE GALLERY SUZUKI
- RECORDER K. & A.

記録
R5 PIECE 3 通路
- DATE 1985. 3. 5. - 3. 10.
- PLACE GALLERY SUZUKI
- RECORDER K. & A.

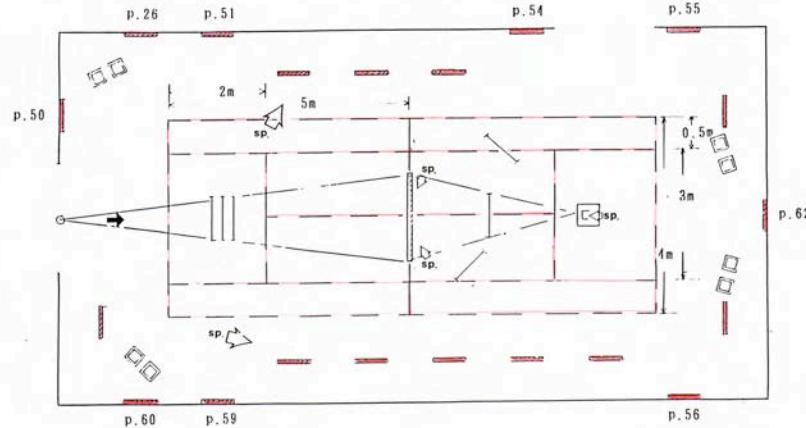
D

E

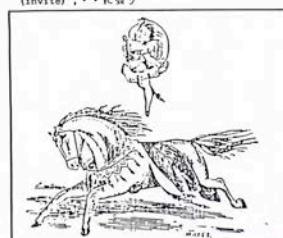
F

SET 2

R.4 (Recording No.4) からの引用／痕跡

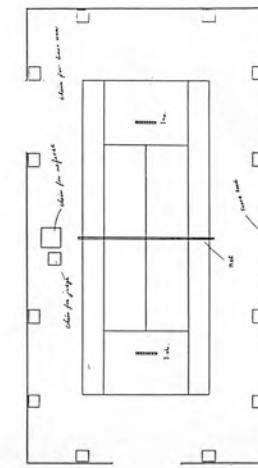


コートのライン（破線）
バネル（sky blue : 90cm×180cm）
壁面(R4のpiece残存)×9
床面(R4のpiece除去)×11
薄暗い空間
外部光遮断
スポットライト(sp.) 50w×2, 20w×



COURT *kōrt* n. 1中庭 (co-urtyard, yard); 2〔特用〕・博物館の中庭式の区画, 〔英〕 [Courtly] の略語。袖小路 2〔テニスなどの〕コート。3〔英〕 [しぶはC-O-] 裁官, 宮中, 宫室, 宮殿 裁判官 = law= [用法の例] 裁判官, 刑相 = a civil [criminal] - 律事 [lawyer] 裁判所 /a/ of appeal 律院 /a/ or first instance 初審裁判所 /a/ of justice [law] 法廷, 裁判所
6類 遵守 (ついしゆ) 1) 責めか - [特用] 女の まげんとなること、求愛 —vt. 1) のまげんを 何向う; [女] 喜んでる。→ a person approbation 人の 誓約を求める 2) 人々を誘う、誘惑する (allure). 3) [不運、災難、敗北など] を招く

p. 55



MIHOKO KOSUGI AND YASUHIKO ANDO

RECORDER

MIHOKO KOSHIGI AND YASUHIKO ANDO

RECORDER

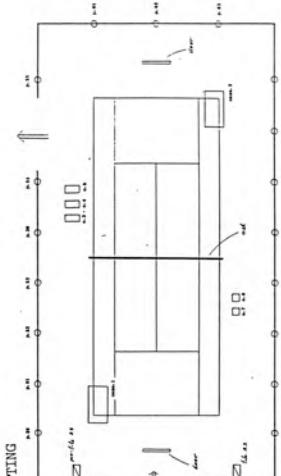
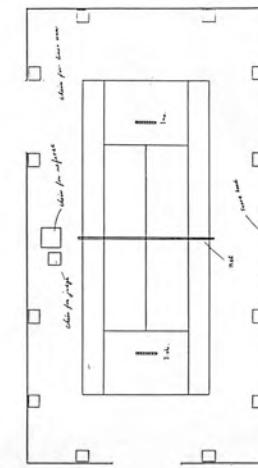


plate1. p.50. -----
p.26 p.51. p.52 p.53 p.30 p.54 p.55
case1. c.2 o.3 c.4 o.5
p.56 p.57 p.16 p.19 p.58 p.59 p.60
c.2 o.3 c.4 o.6 c.7
p.62 p.63 -----
p.61 p.62 p.63 -----

10

p. 50

RECORDING NUMBER	no. 4	QUARTER—FINAL
DATE	1 9 8 4 . 3 . 1 .	(SAT) ~ 3 . 1 . (SUN)
PLACE	KYOTO—INDÉPENDANT	
SETTING		
		piece. 1. p. 59. p.26 p.51 p.52 p.53 p.54 p.55 case.1 c.2 c.3 c.4 c.5 p.56 p.57 p.58 p.59 p.60 c.2 c.3 c.4 c.5 c.6 c.7 p.61 p.62 p.63
		piece. 2. p. 91. p.26 p.51 p.52 p.53 p.54 p.55 case.1 c.2 c.3 c.4 c.5 p.56 p.57 p.58 p.59 p.60 c.2 c.3 c.4 c.5 c.6 c.7 p.61 p.62 p.63
		PIBE
RECORDE	MIHOKO KOSUGI	AND YASUHIKO ANDO



MIHOKO KOSUGI AND YASUHIKO ANDO

RECORDER

MIHOKO KOSHIGI AND YASUHIKO ANDO

RECORDER

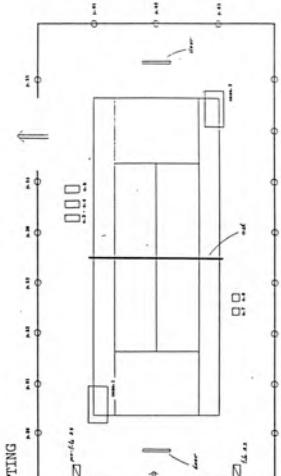
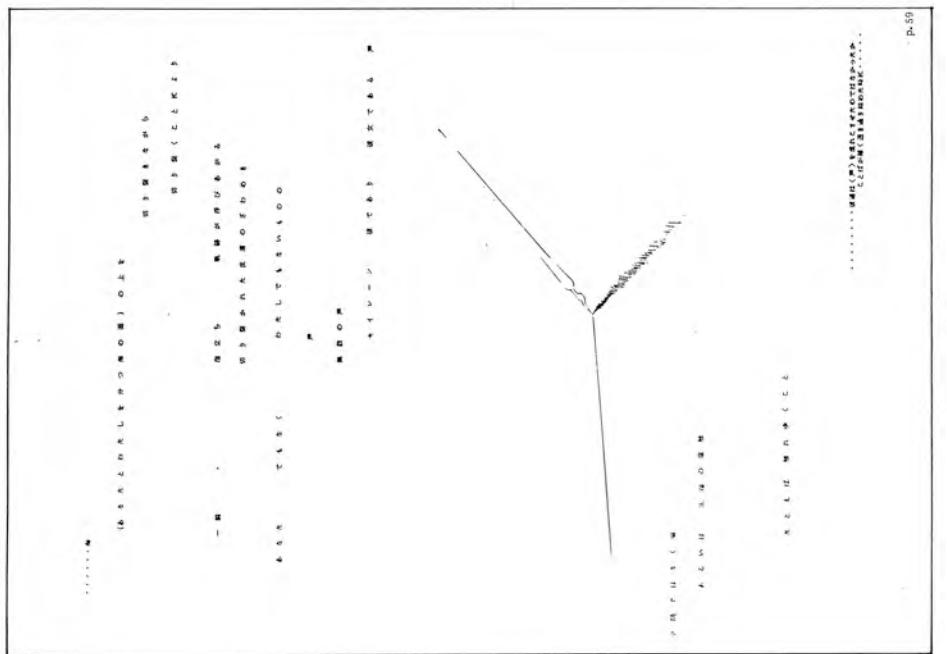
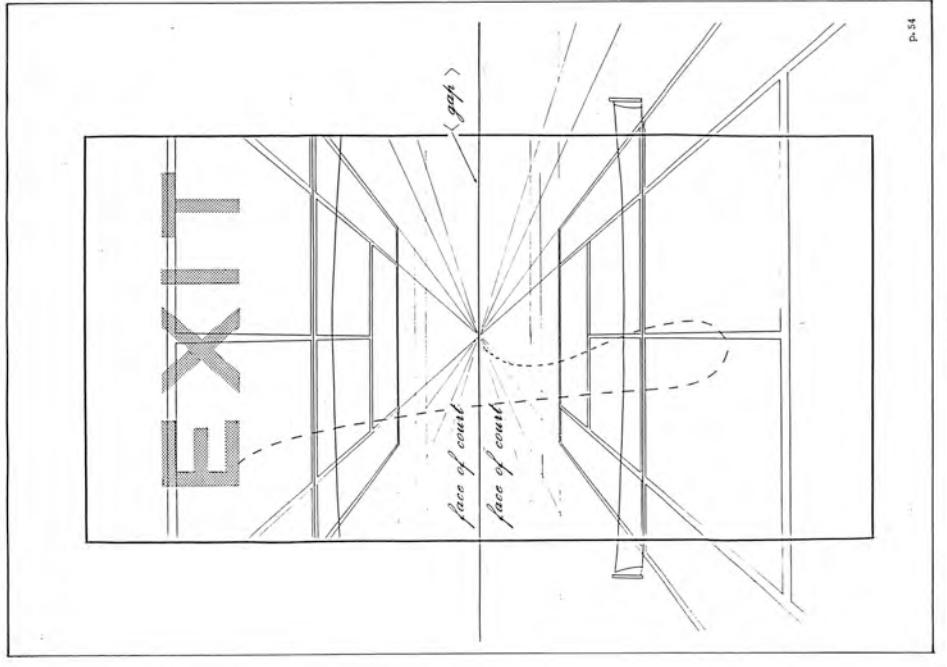


plate1. p.50. -----
p.26 p.51. p.52 p.53 p.30 p.54 p.55
case1. c.2 o.3 c.4 o.5
p.56 p.57 p.16 p.19 p.58 p.59 p.60
c.2 o.3 c.4 o.6 c.7
p.62 p.63 -----
p.61 p.62 p.63 -----

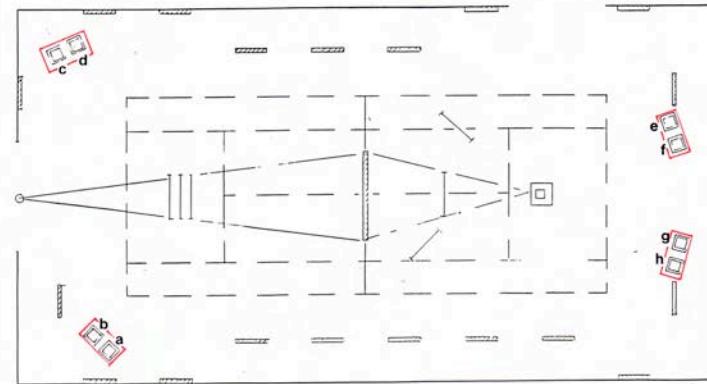
11

p. 50

RECORDING NUMBER	no. 4	QUARTER—FINAL
DATE	1 9 8 4 . 3 . 1 .	(SAT) ~ 3 . 1 . (SUN)
PLACE	KYOTO—INDÉPENDANT	
SETTING		
		piece. 1. p. 59. p.26 p.51 p.52 p.53 p.54 p.55 case.1 c.2 c.3 c.4 c.5 p.56 p.57 p.58 p.59 p.60 c.2 c.3 c.4 c.5 c.6 c.7 p.61 p.62 p.63
		piece. 2. p. 91. p.26 p.51 p.52 p.53 p.54 p.55 case.1 c.2 c.3 c.4 c.5 p.56 p.57 p.58 p.59 p.60 c.2 c.3 c.4 c.5 c.6 c.7 p.61 p.62 p.63
		PIBE
RECORDE	MIHOKO KOSUGI	AND YASUHIKO ANDO



SET 3 i m a g i n a r y s a m p l e



標本箱 (50cm×41cm×7cm) × 8



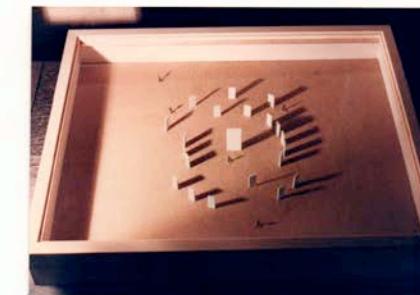
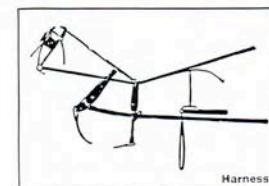
a



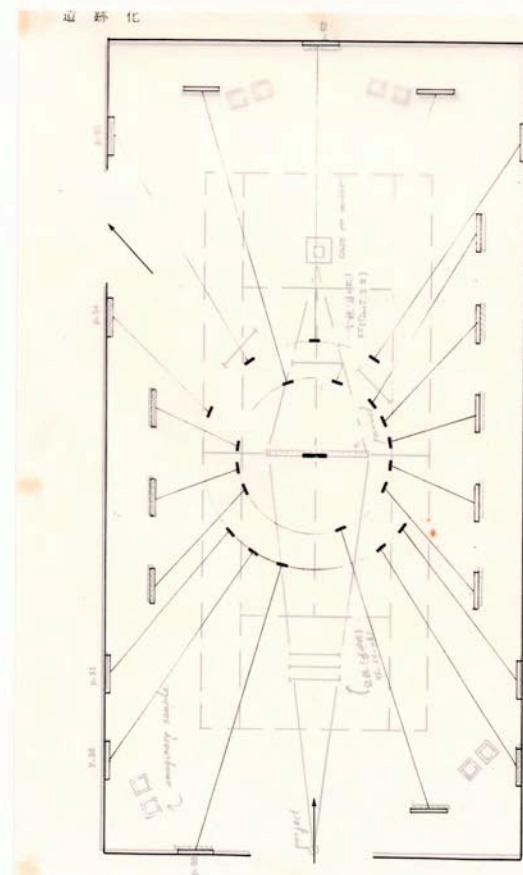
写真 1. A shadow (2001) a silhouette (影の跡)
2. A trace (2001) track reflection (跡像)
3. Trace (2001) a trace (跡跡) (trace-trace)

trace¹ [treɪs] 1. (肯定) 何んかは多く (物) が跡
・入なぞの通った跡 (trace) 足跡: わだぬけ足 (on the sand) 一歩を踏んで。 2. (前) 例: 痕跡 (事物などの跡跡) 痕跡 (経験、
知識などの) 痕跡: 痕葉 (～ of an old civilization) 事跡 (歴史、
文化など) 痕跡: 痕葉 (～ of history) 3. (肯定) 何んかの記録の記録
・A: 1. その跡を (たどり) 追跡する: ～の足跡を (探し) 探し出す
・B: 小道などを (たどり) たどる。
2. 由來、原因、出所を (調べ) 出す: 明らかにする。
3. (G2) などによって 1. の者の跡のままを (確かめ) 発見する: ～の
跡に (たどり) て跡を (たどり) たどる: (～の) 痕跡 (跡) を (探し) 出す
4. <聲> 機器・地図などを (取) く、描く: ～の (是れ) の跡 (跡) を (描) く: (此
の) 例 (例) を (描) く ~ a copy (from the original) 原因から (し) て (者) が取
る迹 (跡) を (取) く。
5. 文句を (たまは) す: (評) ひに (持) く。
6. 文句を (たまは) す: (評) ひに (持) く。
7. 1. に (たまは) す: (評) ひに (持) く。

trace² 1. 有迹度、追跡器具: → HOMEROS (in the
trace) 引き足に (つ) ながれて、 kick over the traces <馬から引か
れて走り出る> (比) 人が走ることを聞かなくなる。



b

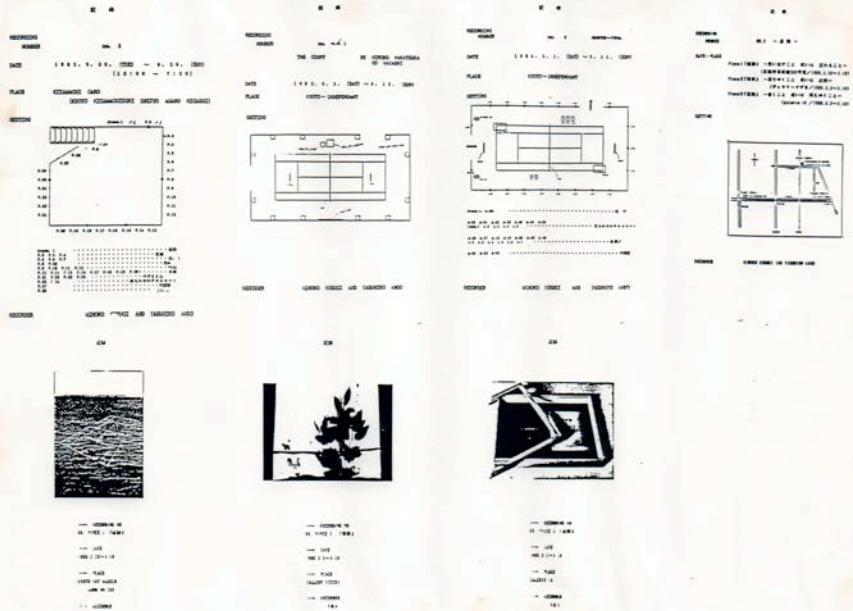




6



1



10年前の少女の耳真に迷する音楽

前の照査所を受け、看護を受けるのは、通常の事例を除き多めであり、看護が施

に説かれているだけだという事を・・・

1995年版の日本の医療ニーズと費用

リラックス・アンド・リラクゼーション

くれたしと出る君がいきま、この時^トと 違く闇たるもの一つの
いきま、この時^トを、ただ一つの時空の内に 別れ入れ解消する事なく
二つの隔たりをいきま、この時^トを含める物語、あるいはその番劇。
ノクターナルト。——後の夜空には舞をこめるは、もう一つのいきま、
この時^トの絶対性を引き込まれ、夜(日々)の時空^トと、すべてを読み
込むかわらしの限りない夜空。



通期札遣切符に、過失併くコートのライン

かとしの脳出しを受け、落胆を感ずるのは、ほほの骨分かな少女であつ



f



g

閉じられた記憶
閉じられ内部へ向けて開かれる眼差し

薄れ行きながらも　いく度も繰り返される声
(思ひだしてほしいの・・・思ひだしてほしいの・・・)
私のことを語えていて?
何處にいたの？　私は　ずっと　ここにいたわ。

わたしは　あなたに一つの言葉を伝えたいのだけれど
わたしには　どうしてもその言葉が　思いだせない
わたしは　あなたに思い出しても　その言葉を

どうして　その言葉がわたしにわかるというんだい？
忘れてしまつたのは　あなたなのに・・・

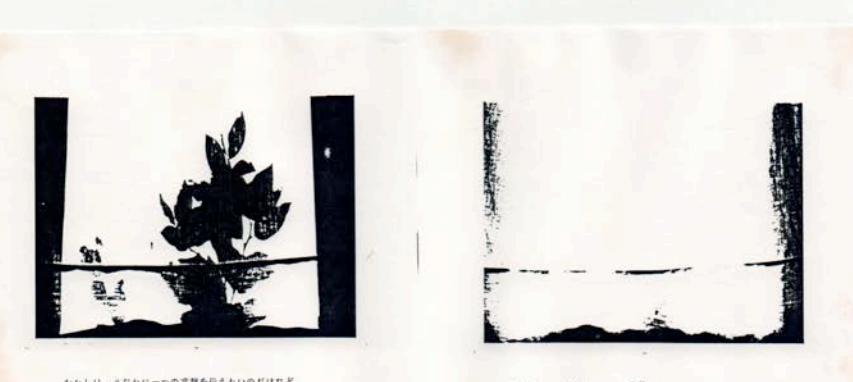
忘れたわけではないの
忘れることができらうようになったときには
もう　その言葉はわたしから失われていたんだわ

――それは　本当に言葉だったのか
放熱　空虚な空熱
それは　全てを忘れる事？　或いは
全てを思い出すこと？

わたし　あなた　言葉
わたし　あなた　言葉
言葉　わたし　あなた　?

忘れ
失われ

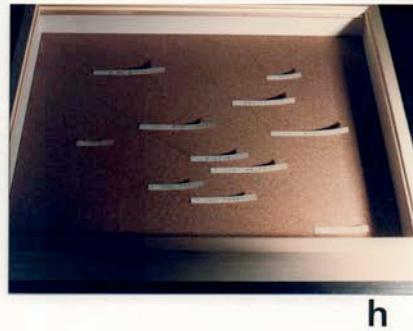
言葉　放熱　空虚な空熱
全て　?　或いは
全て　?



わたし　あなた　言葉
わたし　あなた　言葉
言葉　わたし　あなた　?
忘れ
失われ

――それは　本当に言葉だったのか
放熱　空虚な空熱
それは　全てを忘れる事？　或いは
全てを思い出すこと？

言葉　放熱　空虚な空熱
全て　?　或いは
全て　?



h

ワタシハ 夢ヲ見テイタラシイ

ワタシハ 夢ヲ見テイルラシイ

思イ出シテ欲シイノ

誰ガ 一体、話シテイルノ？

一体、誰ガ 話シテイルノ？

誰ガ話シテイルノ？

此處ハ ドコ？

此處ハ 何處？

ココハ ドコ？

見失ナワレテ・・・

アナタハ 何處ニイルノ？

ソレハ ササヤキ？

ワタシ

アナタ

覚エテイテ？

覚エテイマスカ？

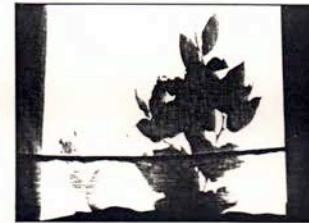
Piece II 「部屋」
—語りゆくこと 成いは 沈黙 —



...思い出してほしいの...なにを?
...私が忘れてしまったことを。

<設置物>
・声達がかわす会話...紙片(壁面)
・彼女が書き残したと思われるもの
...紙片(部屋の片隅の丸テーブルの上に)
・彼のノート...。(長椅子横のナーブルの上に)

記 錄



R 5 P I E C E 2 部 屋

1985. 3. 5. - 3. 10.

G A L L E R Y S U Z U K I

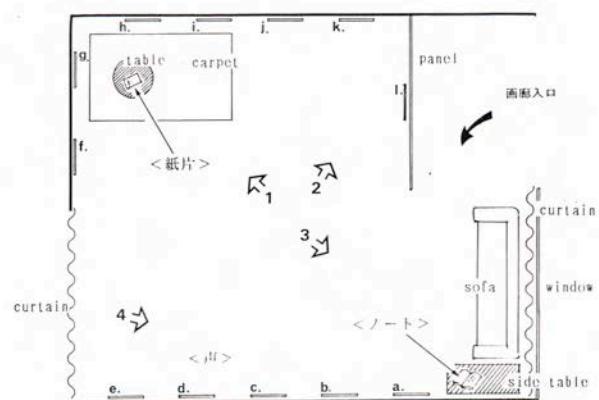
K. & A.



1



2



3



4

記録 (photo)

<紙片>

わたしは 行かなくてはなりません

< 声 >

——何か お話しして欲しいの。
——どんな話をすればいいんだい?
——何か。。。そう、どこにでもあって それでいて どこにあるとは決して言えない様な。。。抱き壓さするほど身近でありながら わたし達から遠く隔たれている。。。
——身近でありながら 隔たれて。。。
——わたしの目の前にいるあなたのようにな。
——ええ、そして あなたの目の前のわたしのよう。。。
——では わたしとあなたの間にある歴史を話せばいいんだろ
うか?
——抱か? いいえ、そうじゃないの。
わたしからあなたへの割り そしてそれは決して姿ならない、あなたからわたしへの割り。その割りを。。。話して欲しいの。
きっと。。。そう、わたしの話しで欲しいのは、あなたがわたしに話し掛けること、そのことをなのかもしない。。。
——どうすれば それを話し得るの? 僕には 話すことができるの?
——わからないわ、でも あなたが話し始めなければ。。。そう、あなたが話さなければ それが話し得ないということも忘れてしまう。
——でも どのように話し始めたらいのだろうか?
——わからないわわたしには、でも。。。
ねえ、話し始めてください。。。

——何か お話しして欲しいの。
——どんな話をすればいいんだい?
——何か。。。そう、どこにでもあって それでいて どこにあるとは決して言えない様な。。。抱き壓さするほど見近でありながら わたし達から遠く隔たれている。。。
——ああ、わたし達がいつも話続けてきた様にも思える、わたし達から遠く隔たれている。。。そのような話。
——ええ、どうか話し始めてください。
——何え?
——何えば、ひとつの部屋。。。
——どうすれば それを話し得るの? 僕には 話すことができるの?
——わからないわ、でも あなたが話し始めなければ。。。そう、あなたが話さなければ それが話し得ないということも忘れてしまう。
——でも どのように話し始めたらいのだろうか?
——わからないわわたしには、でも。。。
ねえ、話し始めてください。。。

——ひとつつの部屋があるだろう。
四角い部屋。
部屋の片すみには九テーブルが、わざかにはこりを被ったまま置かれている。
——誰もいないのかしら その部屋には。
——誰の姿も見えない。誰もない。
けれど 誰かいたんだろう。テーブルの上には 一枚の紙片が 置かれている。
——ああ、わたし達がいつも話続けてきた様にも思える、わたし達から遠く隔たれている。。。そのような話。
——ええ、どうか話し始めてください。
——ああ、小さな文字で、たった一行だけ書かれている。
——ええ、たった一行だけ書かれているのね。でも そこには何が書かれているのかしら。。。?
。。。そう、わたしには解るわ。きっと こう書かれているんだわ。。。『ワタシハ 行カナクテハナリマセン。』

——その部屋の片すみに置かれた九テーブルの上には 一枚の紙片が置かれている。
『ワタシハ 行カナクテハナリマセン。』
誰かに伝えようとして 置かれた文?
——いへい、誰が誰に向て書き残したのかしら。。。
その部屋には 他に何も置かれてはいないのかしら? どうか 言し残してちょうだい。もっと、その部屋のことを。
——君がわには 長椅子が置かれている。そして そのサイドテーブルの上にはノート。
——そのノートには 何が書かれているの?
あなたに そのノートが読めて?
——ああ、彼女ことが、そして、一枚の紙片を書き残して彼女が行ってしまったと ノートには書かれている。
——ノートに? それを書いたのは彼なのね。彼はまだいるの?
——いや、彼もまたそのノートを残し 行ってしまったらしい。
——それともノートに 書かれているの?
——もう ノートには。

——ノート？ そのノートには 何が書かれてあるの？

——彼女のこと・・・ 彼女が話したこと

彼が 彼女と話したこと・・・

彼等が振りゆき、そして沈黙が彼等を支配したこと。

——彼等の話したこと？

その部屋で・・・

——彼女はもう行ってしまったの？
それとも まだ 何處にも行ってはないのかしら・・・

——誰が書いたのかしら？『ワタシハ イカナクテハナリマゼン』

——静かな部屋

——彼女が書いた？ ・・・ 誰に向けて？

彼女は 行かなくてはならないんだわ。

——何處に？

——何處にではないわ。それは何處かではないのよ。

彼女は出ていかなくてはならなかつた。

ここから 戻りは 何處から

——イカナクテハナラナイ ・・・ 何が 彼女を苦しめたの？ 何か苦しめた事でも
あったのだろうか

——いいえ 彼女は終めなんだわ

——彼女は知らせておきたかったのよ

彼が待つことのないよう

——けれど 彼は 本当に彼女が行ってしまったと

思うだろうか

私はそれを疑うように 彼もまた 信じることは
できないだろう。待ってしまう？

彼は待つだろう。彼女が戻ってくるまで

——それなら・・・ 彼女は どう書けばよかったですの？

本当に行ってしまうことを 伝えるためには・・・

彼が待つことのないようにするためには・・・

(不可能なこと・・・ 不在のうちに書くことはできないのだから)

——どうしても 自分の不在を彼に伝えることはできな
いだろう。

ワタシハ イッテシマイマシタ と書くことが
できない限り

(これから起こることを みんなも過ぎ去ったことのように語ること・・・)

——ワタシハ イカナクテハナリマゼン。それが彼女の書き附だ。愛・・・
まるで 自分以外の何かによって動かされる(動かされて
しまう)とでもいったように・・・

——彼女は 行ってしまったのね。

——ああ、行かなくてはならなかつたんだ。

彼は 彼女のいない部屋にいる。彼女をこの部屋に
見ることは 二度とないだろう。

借りに来た恋しみにのみこまれつつも彼は ふと思つ
てみる。

(一体、誰の内にその思い出はあり続けるのか？

私の内に？ 行ってしまった彼女の内に？

それとも 彼女と私が思い出となっていり、
この部屋の内に？)

部屋は 思い出を内部にのみこみつつ、持ち続け
そして 時折、彼の内奥へと降り落とす。

——ノートを渡し彼も又 この部屋を出て行ったのね。

そして 部屋だけが 我されている・・・

誰も いない部屋。

——彼は 思い出す・・・
彼女が 彼に尋ねたこと。
『ねえ、ここは 何処?』
彼は答えない。彼は ただ、黙って彼女を見ている。
『ねえ、ここは 何処?』
彼女は もう一度、尋ねる。前よりも少一回
つぶやきに近く・・・
その様な彼女の問いかけにむけて
彼はどう答えれば よかったのだろうか・・・

・・・・・・それは ひとつ前の扉
・・・誰もいない、ひとつの扉・・・

——彼は 思い出す・・・
されざれに浮かびくる、彼女のつぶやき。

『忘れてしまいかね。私のことを すべて。
だけど そのためには忘れようとしてはならないの・・・
すべてを 思い出さなくてはならないんだよ。』

『あなたが 私を物語る・・・それは』私を思い出し、
そして忘れること。』

『何か お話して欲しいの。』

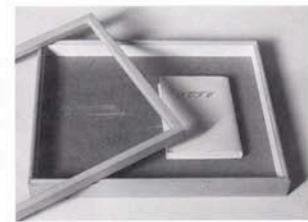
——でも 彼女は ほんとうにいたのかしら?
紙片を書き残した彼女
彼が 懐にも思い出す彼女

彼女について 私達が知りえるのは 彼のノートに書かれてあることだけ・・・
彼が 思い出す思い出の内にだけ・・・
彼に思い出され 流される彼女。

・・・・こうして話を私はもう失
・・・誰かによって思い出されているのかもしれない。

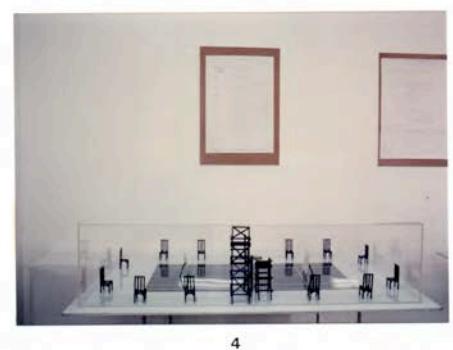
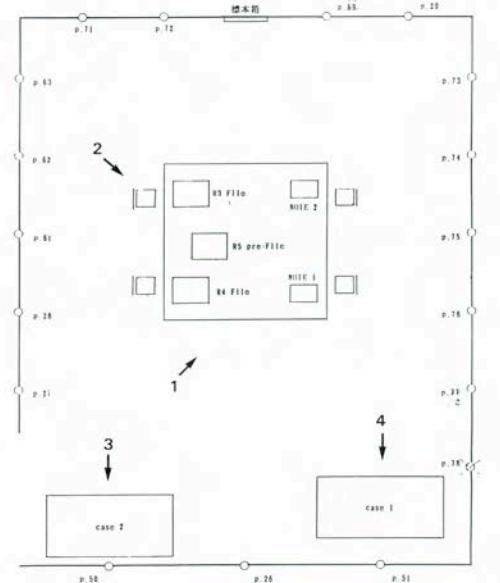
——私はも・・・思い出されて・・・
——でも 誰によって?
——誰に・・・いや、誰かではないだろう・・・
むしろ こうして話し続けることで 私達は
私達自身を思い出しているのではないだろうか?
——こうして 話し続けるなかで・・・

Piece■「道路」
—書くこと 或いは 消えゆくこと—



・・・忘れるために書く?・・・
(しかし、そのためには書き続けねばならないとしたら・・・)

<設置物>
•piece (壁面)
•Note •• no.1 no.2
•File ••• R.3 R.4 pre.R.5
(机上)



記録 (photo)

<NOTE> . . . 机上 A4版 × 6

「R5 PIECE I NOTE」

「R5 PIECE II NOTE」

「R5 PIECE III NOTE」

「誰もいないテニスコート 1」

「誰もいないテニスコート 2」

「きれぎれの . . . 」

<PIECE> . . . 壁面 A2版 × 17

PIECE NO. 12 20 21 26 28 50 51 61 62 63
71 72 73 74 75 76 77

<FILE> . . . 机上 A3版 × 2

「R3-File」

「R4-File」

標本箱 × 1 . . . 壁面 箱内にPIECE IIのイメージ・フォト

<NOTE>からの抜粋

1984.10.12

最終 . . . 記録 . . . 記憶 . . . 正解

1984.10.12

最終 . . . 記録 . . . 記憶 . . . 正解

最終とは . . .
後に記されたもの。書きされた . . . つまり、ある出来事が起り、それにその出来事の通り過ぎた事が、既となって残ること(出来事の対象は書きかけたものの、あるいは出来事そのものの持つ意図、意志、立場の有無に向かう)で書きされているものとは、言えないか?

最終 . . .
路地裏の橋石のあと。主を見失らぬテープルの上の手袋。床間に残された吸い殻、飲み下されたコロナ。或いは、「のけ」の足跡。小樽の軌跡などは何が(人が)出来事の通り過ぎた事を、その痕をもって、見るものに知らせている . . .
人は、それらの眞跡により、その出来事を見るというよりは、その出来事が既に起こった事を、行ってしまった事を知る。
子供達へ、何見へ行チマッタノカ?ツイサキマダコゴデソノデイタノニ。・・・婆女ハ、行チマッタノカ?ツイサキマダコゴデソニ。後はその眞跡を眺めている。彼は既に迷ってしまった。

ある出来事は、通り過ぎてしまつた。他の出来事は、彼はその眞跡の中にいた。
記録とは . . .
くいまを留める事。その動き。通り過ぎたということを、その段から語りかかる眞跡と置く。眞跡は、いつも時を越えてくいまと語る。
ある出来事を時を越え、くいまと語り続ける動きとは、言えないか?

記録 . . .
20年前の記録。眞跡は、ある出来事が記録された時点からの、時間的な隔たりを通り過ぎたものの、既に、くいまではないものを)語るのではない。
そうあるのは、眞跡の眞跡的な面にすぎない。
眞跡 それは自体はくいまと語る。くこれが いま ここであると語る。
記録 記録 . . . record . dist . photo . . .
disk . . . 今、彼女ハ暫フティル。何度モくいまヲ奪ウ . . .
何度モくいまヲ奪ウ . . .

「R5 PIECE I NOTE」より

「R5 PIECE I NOTE」より

1984.7.23.

出の部屋

<ト書き>を考えること・・・

部屋の大半を占めて二つの空間がねづけられ(切り取られた)いる。(舞台A)

その内部に丸テープルとその上の一枚の絨毯。

(舞台空間としての部屋。(舞台B))

登場人物 : <声A>と<声B>

「彼」と「不在の『彼女』」

「あなた!」——通行人——亡靈? —いや?

「あなた!」が部屋に入ってくる

彼が部屋に入ってくる

彼が部屋に入る

「あなた!」は部屋に入る

彼は部屋に入る

彼は紙片を読む

（＊・＊・＊そうして 出でいく）

「あなた!」は<声>を聞く?

<声>には「あなた!」が見えない。

<声>には「あなた!」に聞かれていることを知らない。

彼にとって 不在である「彼女」

<声>によって 声始めて 不在として存在する「彼女」

「あなた!」にとどって <声>によって始めて存在するが 不在である彼

出の部屋

1984.7.29.

出の部屋

実際にその空間にsetが必要かどうか?

音楽、舞台は、自分で作かれる。なら「実際のsetはどのような作用を起こすか?」

setがあるか?・(setの内容も考えること)

部屋の片隅にテーブル、その上に紙片。紙片にはこう書かれている・・・

「ワタシは、イカナガチャ、ラチャイ」

<声>(piece)と<部屋>(set)は繋げ合わはない。

從って<声>と<部屋>の それ。

(そして「部屋」<声>+<部屋>)

「<声>によつて活されているのは この<部屋>のことなのだろうか?」

という観點が生じる必要性。

「あなた!」が<部屋>への導入 ・・・ 紙片を読む彼

observerの<部屋>への導入

observerの<部屋>への導入

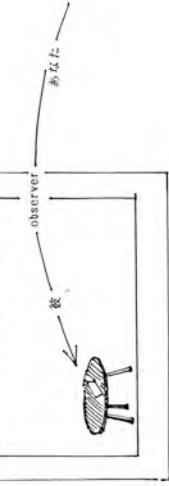
・紙片を「読みじこ」とにおいて

・室内に入ったことによつて

・「声」を聞くことによつて

observer

《部屋》



「R5 PIECEII NOTE」より

「R5 PIECEII NOTE」より

1984.7.23.

出の部屋

1984.10.10.

note-

-引用-

「天女の庭」(H. MATSUMURA - THE COURT)を「R. 4」の中に取り込むこと

(作り込むこと)

「天女の庭」は「R. 4」の中に解消されるのではなく

「R. 4」によつて「事後的に」展開される

(しかし「天女の庭」から「R. 4」への流れだけが だからといって 本筋がある訳でもない。

それは一つの支流である。が だからといって 本筋がある訳でもない。

それは 本筋なしの文流・・・)

setの形態(、之の構成)

断片、詩的言語(?)、物語り、分析・・・

A2 「断章」—断章の動き

・「断章間の中断・・・書けなくなる?」

・二者間 戒いは一貫における「断章間の移行形態

A3 「聞く」と・・・

・中断における 何らかの出来事

・時間的拘束 etc.

・「聞く」という 一つの位置・・・

(それが「R. 4」で試みられる)

「R. 4」の中には「天女の庭」が含まれるのでではなく

「R. 4」と「天女の庭」が別々にあるのではなく

「R. 4」と「天女の庭」が一つにまとめられることがなく

「それぞれが それぞれをぶくみ かつ 別々である」という状態

(それが「R. 4」で試みられる)

(court) は

court は

「そのなかに 私達がいる」 court
そのcourtを眺めているのは誰か？

誰が？ と訊く

私は 「<わたし>はcourtにいるようだ」と答る
「<わたし>は夢を見ているらしいと思ひでつがやく

夢の中の見聞 —— courtを眺める視線

絆まるのは・・・・・視線

・夢の中の見聞

(鏡のネットにボールを打ちつける私を見ている・・・)

(鏡をのぞきこむ少女を見ている・・・)

<わたし>の座を定める・・・

<わたし>を思い出し抜け・・・ その度に 一段また一段 足場を伸ばす・・・ 空に向けて

・courtを眺める視線

<わたし>の座を定める・・・

(よう漣たる始終に高見の路を越てるよくな動き

夢を語る —— courtを語る

誰もいないテニスコートを見るためには
彼女はそこにはならなかった
彼女は自分自身であつてはならない

彼女は誰もいないテニスコートを見ようとしたのではない
彼女の目は見てしまったのだ
誰もいない場所(テニスコート)を

彼女の目は見てしまった
彼によって 彼の声によつて

彼女は知らない自分がそれを見ていることを
彼女はそこにいない 見ている場所に
彼女はどこにもいない

彼女の目は 彼女の目ではない
それは誰でもないものの目？

彼はもう一つの目を必要とした
彼の目であつてはならない もう一つの目を
誰かの目であつてはならない もう一つの目

「誰もいないテニスコート」より

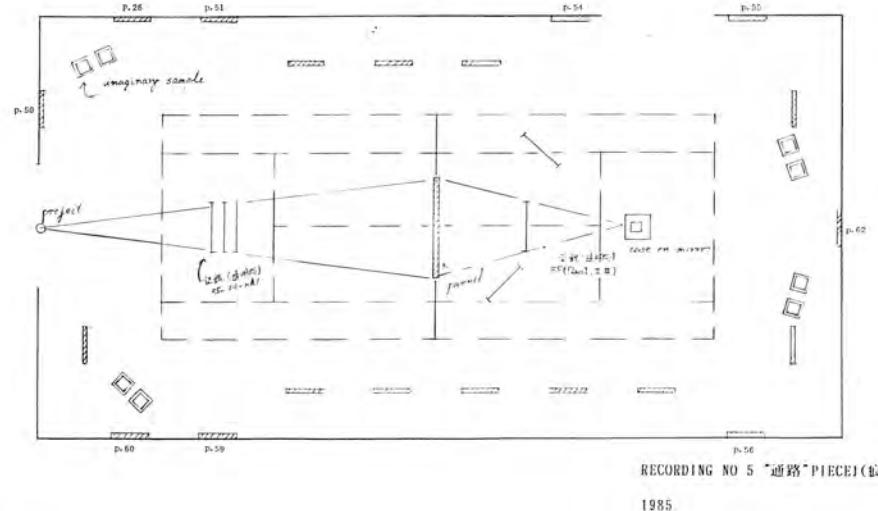
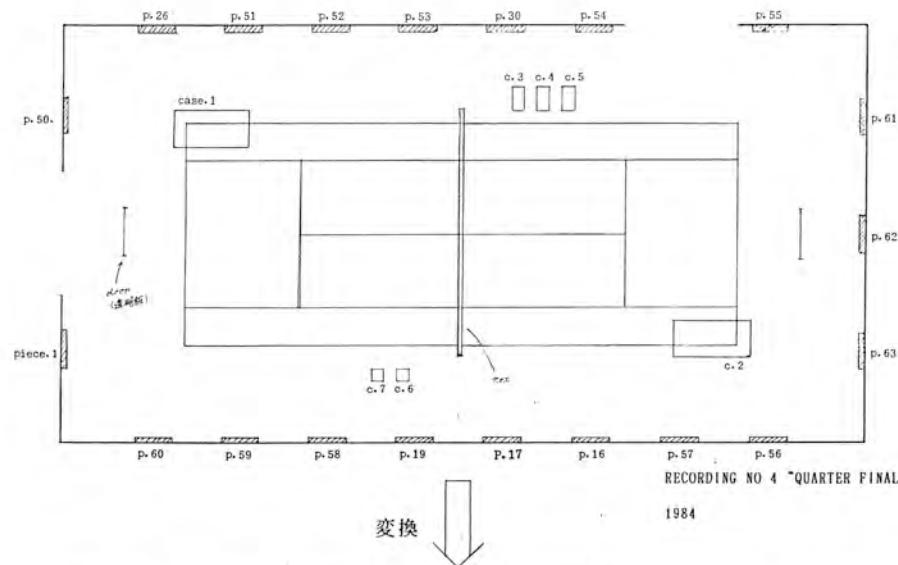
「誰もいないテニスコート」より

P I E C E

PIECE-ANALYSIS

for R5-PIECE I『痕跡』

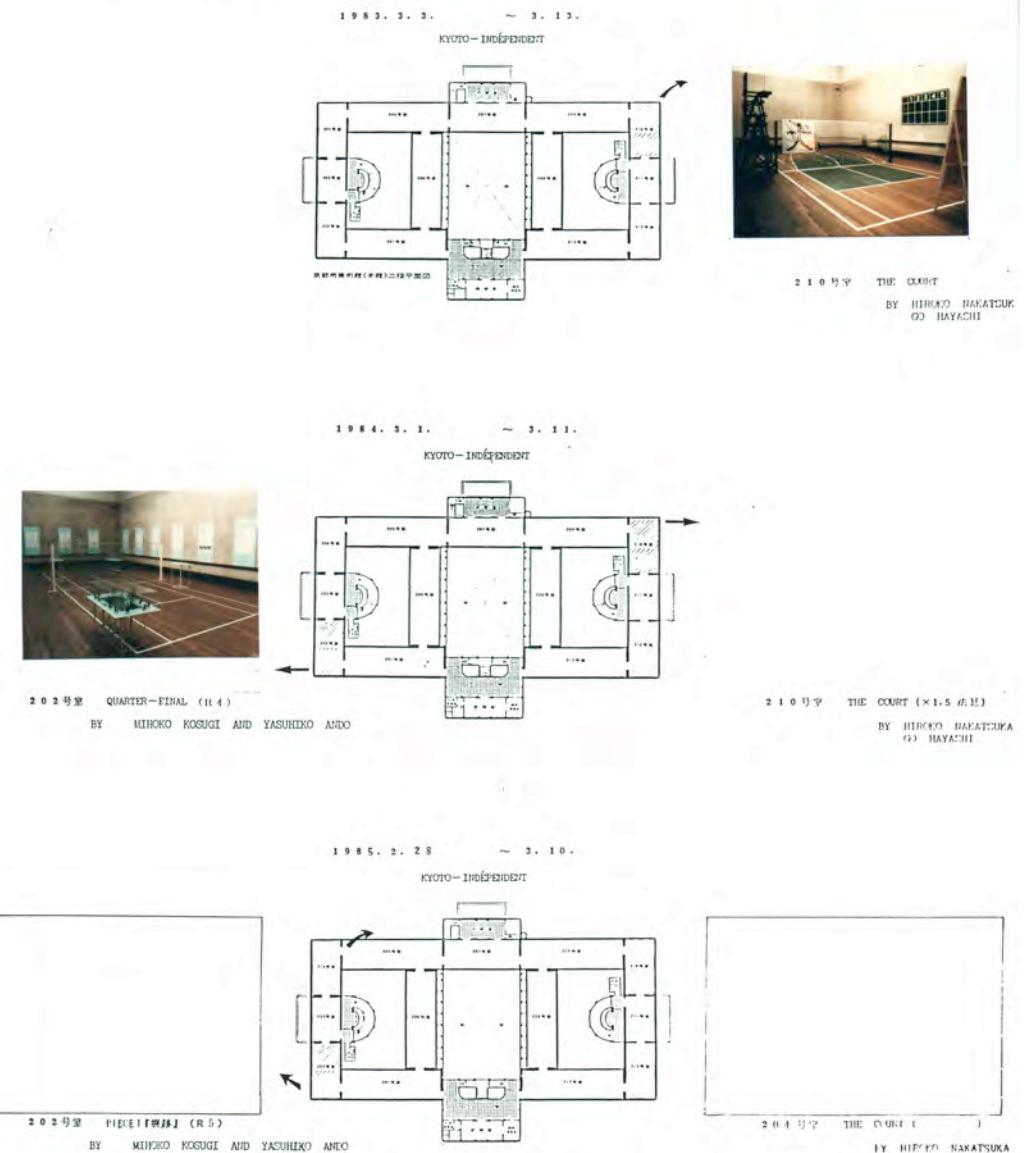
R4 → R5-PIECE1(痕跡) の変換 或いは R4の痕跡化



PIECE-ANALYSIS

for R5-PIECE I『痕跡』

- THE COURT "天女の庭" の<引用>系列 -



記録

RECORDING
NUMBER

no. n.h. 1

THE COURT

BY HIROKO NAKATSUKA
GO HAYASHI

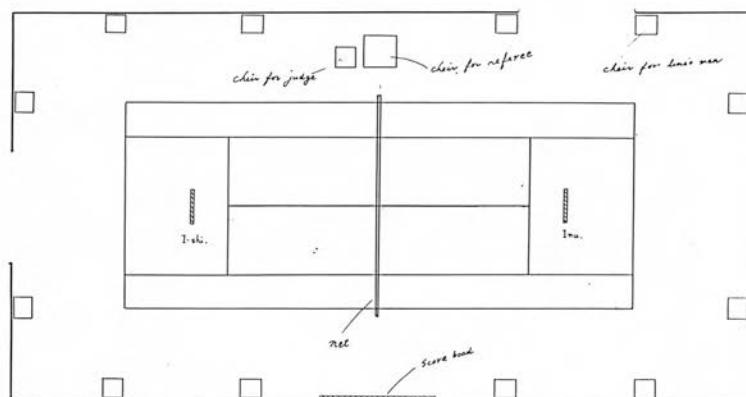
DATE

1983. 3. 3. (SAT) ~ 3. 13. (SUN)

PLACE

KYOTO—INDEPENDANT

SETTING



RECORDER

MIHOKO KOSUGI AND YASUHIKO ANDO

記録

RECORDING
NUMBER

no. 4

QUARTER—FINAL

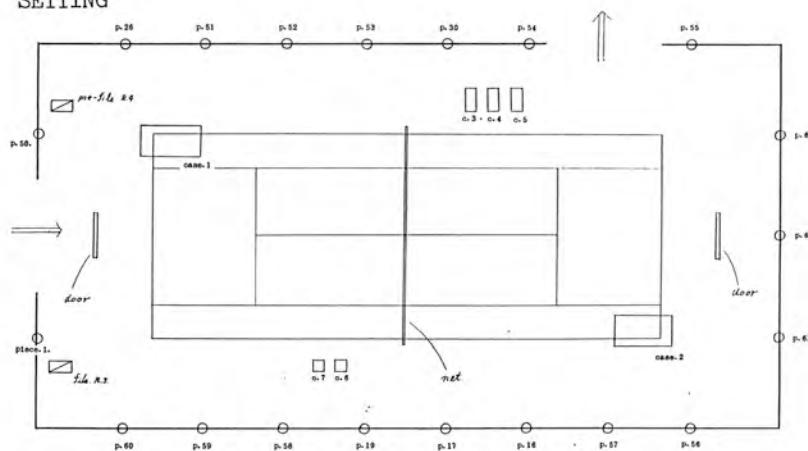
DATE

1984. 3. 1. (SAT) ~ 3. 11. (SUN)

PLACE

KYOTO—INDEPENDANT

SETTING



piece.1. p.50.

-----記録

p.26 p.51 p.52 p.53 p.30 p.54 p.55
case.1 c.2 c.3 c.4 c.5 ----- 誰もいないテニスコート

p.56 p.57 p.16 p.19 p.58 p.59 p.60
c.2 c.3 c.4 c.5 c.6 c.7 ----- 表面／

p.61 p.62 p.63 ----- PIECE

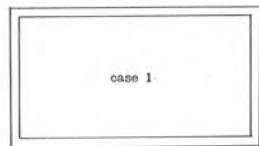
RECORDER

MIHOKO KOSUGI AND YASUHIKO ANDO

TABLE 1 COURT 1・天女の庭

CASE : case 1

SETTING :



DATA OF CASE :

透明アクリルの直方体 $30 \times 70 \times 140$ cm 5 mm

内部の設置物

- NET : 鏡面アクリル板 (Fig 3)
- LINE : white tape 0.2 cm
- score board (Fig 1) 椅子 (11 個) (Fig 2)
- object (2 個) (Fig 4, Fig 5)
- 審判席 (大小各 1 個) (Fig 6, Fig 7)

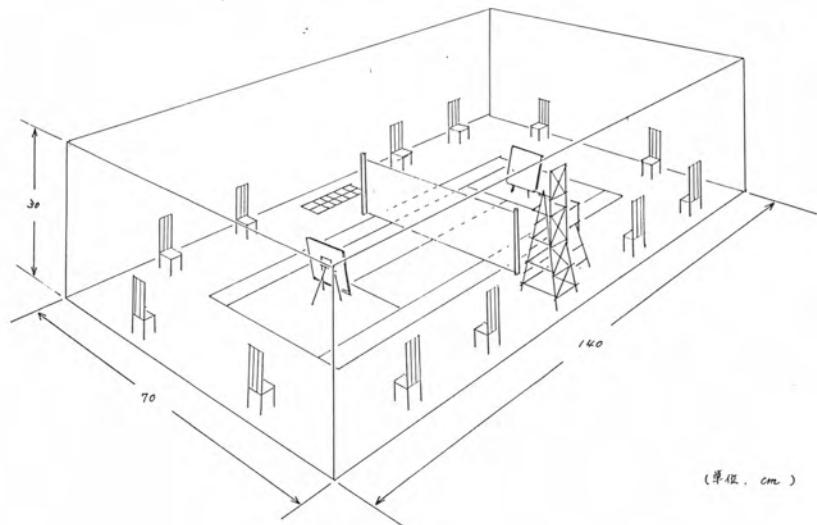
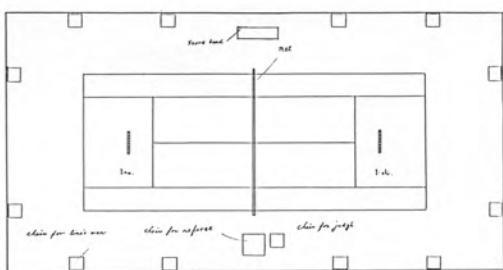
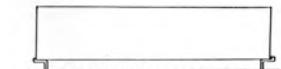
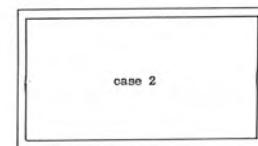


TABLE 2 COURT 2

CASE : case 2

SETTING :

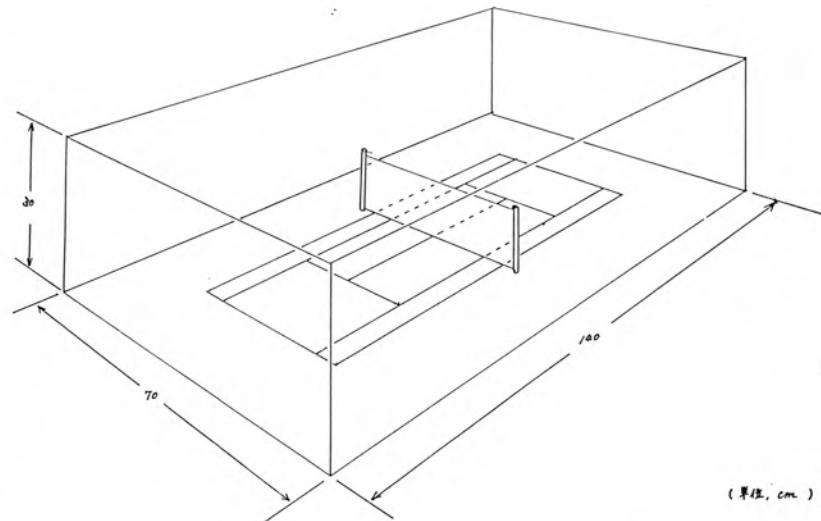
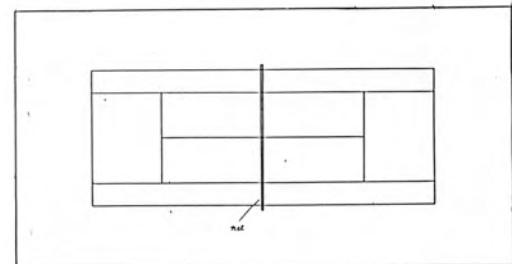


DATA OF CASE :

透明アクリルの直方体 $30 \times 70 \times 140$ cm 5 mm

内部の設置物

- NET : 透明塩ビ板 (Fig 3)
- LINE : white tape 0.2 cm



八日目。雨。

この時間 テニスコートに入影はない。

あきたは いつものように わたしの左横で 灰色のノートを書き続いている。見ようとは思わないけれど そのノートの紙面にはわたしがあなたに向て語ることばのすべてが 書き留められているのだろう。ひとことも もらさず・・・わたしのことばが・・・すべて・・・・

(けれど 声にならない こんなわたしの吐きさえも あきたのノートに書かれいくとしたら・・・)

いつのまにか わたしはあきたに話しかけている。

———読めているのは わたしなのかしら?

———何を読めているの?

———テニスコートだと思う。そこには・誰もいないの。テニスをする人も観客も 誰ひとりとしていはしないの。

———誰もいないテニスコート? 誰もいないテニスコートをあなたは読めているんだね?

———誰もいないテニスコートをわたしは・・・いえ そうじゃないわ。

「わたしは誰もいないテニスコートを読めている。」なんて何故わたしに言えるというの。

———ああ、あきたには「わたしは読めている。」とは言えないんだね。「わたしは・・・」と言った途端 あなたはいってしまう。誰もいないテニスコートには 読めるあなたのせいではならないのに・・・。じゃ 彼女の事を話してくれるかい? それなら あきたにも話せようだろう?

———ええ 誰もいないテニスコートを読めている彼女の事ね?

———ああ、あなたが僕に夢の話を聞かせてくれるようだ。

———彼女は誰もいないテニスコートを読めているの。

———何か考え方でもしているんだろうか?

———いええ 何も。ただ読めている。もしも 何かを考え始めたら 彼女はいってしまうわ。

———誰もいないテニスコートだね。

———ええ だから彼女は ただ読めているだけなの。きっと読める事ができないのよ。何かに心を奪われているの。

———彼女は例に心を奪われているの?

———うん 大ぶん。

無に心を奪われて 彼女は読めているの。

———・・・・無に心を奪われて 彼女は読めている・・・・

———こうして あなたに話しかけることばのなかで 彼女は読め始めているの。

———それは彼女の? 読め始めたのは あなたではないの?

———何故あきたなんて言うの?

———ああ 誰でもいいんだね。ただ 誰かであってはいけないんだ・・・

———誰かであってはいけないの。

———でも それから 彼女の事を話すのがあなた／＼わたし)であって いけないんだ。夢を語り始めれば 夢の光景を読めていたのが (わたし)でしかなくなってしまうようだ・・・。けれど 僕達はすでに話し始めているんじゃないだろうか? 誰もいないテニスコートを読めている彼女の事を。

———話している? いったい 誰が話しているというの?

誰も話してはいなかったんじゃなくて?

(あきたは灰色のノートに ひととももらさず わたしのことばを書き留める。

けれど わたしは そのノートを読んだ事はない。)

読める

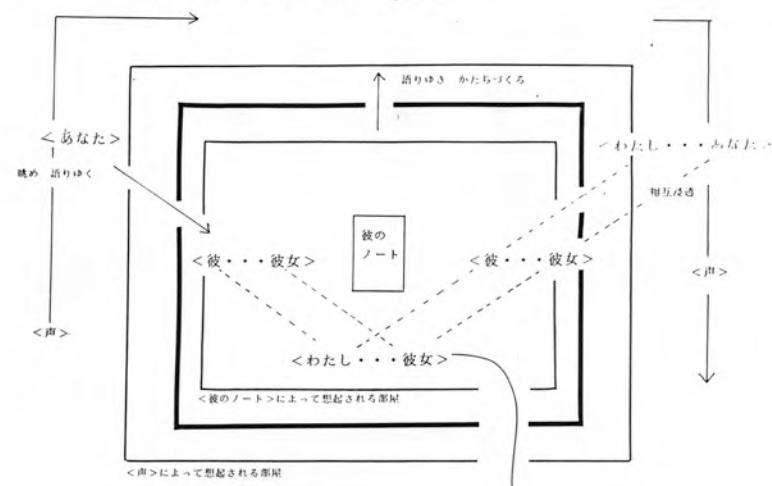
無

夢を語る

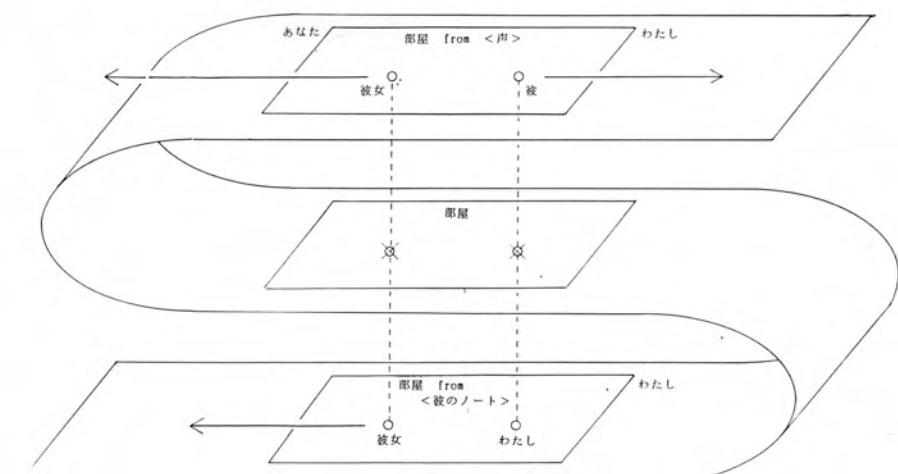
誰が話しているの?

PIECE-ANALYSIS

for R5-PIECE II『部屋』



『部屋』



— she —

彼女を捕らえようとしてはいけない。
彼女をしのびこませるのだ
彼女から しのびこむように
そっと 隙間をひろげてやる
ある ものとの
言葉と言葉
ある ものと言葉との間に

——あなたは 彼女を知っているのか?
——ええ わたしは 度々 あなたのなかに彼女と
出会うから・・・

彼女は 隙間にしのびこむ
わたしと あなたとの隙間に
そして その瞳の有様
あなたが彼女の瞳で わたしを見るのを感じる時がある
微笑むわたしの唇のはじで 彼女が微笑んでいるのに気付く時もある
すべての隙間に 彼女はしのびこむ
時々 わたしは 彼女が隙間そのものではないかと思ってしまう

FACE OF SKY
FACE OF SEA

TEAR IN THE FACE

忘却／海／表面

海面の 凝固・・・切り裂き・・・[彼女の内に広かる]

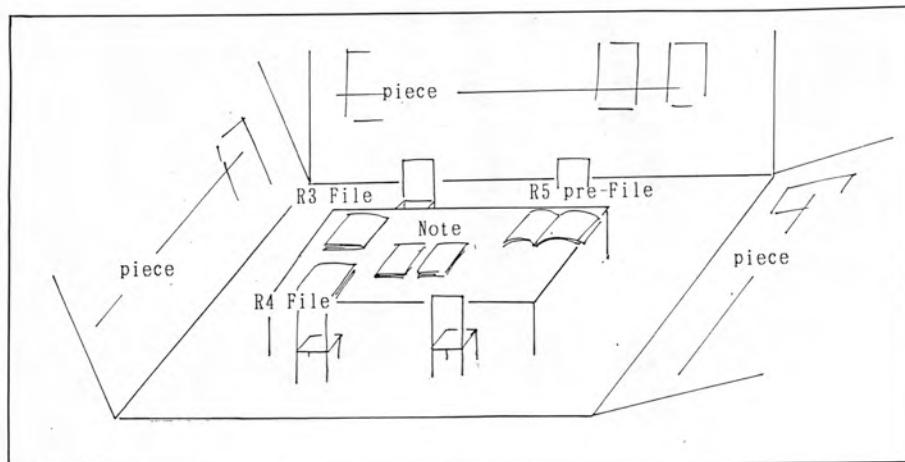
sea / she / sea(she)

空の底層を飛ぐ

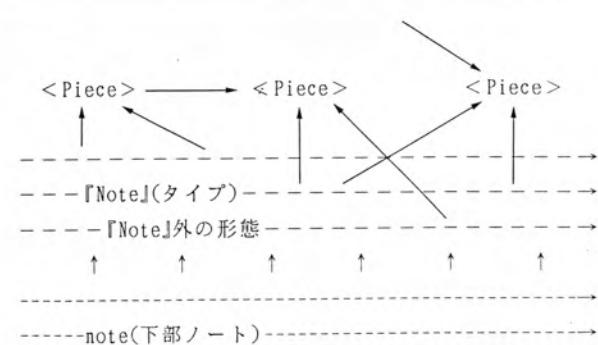


PIECE-ANALYSIS

for R5-PIECEⅢ『通路』



note—『Note』—< Piece >



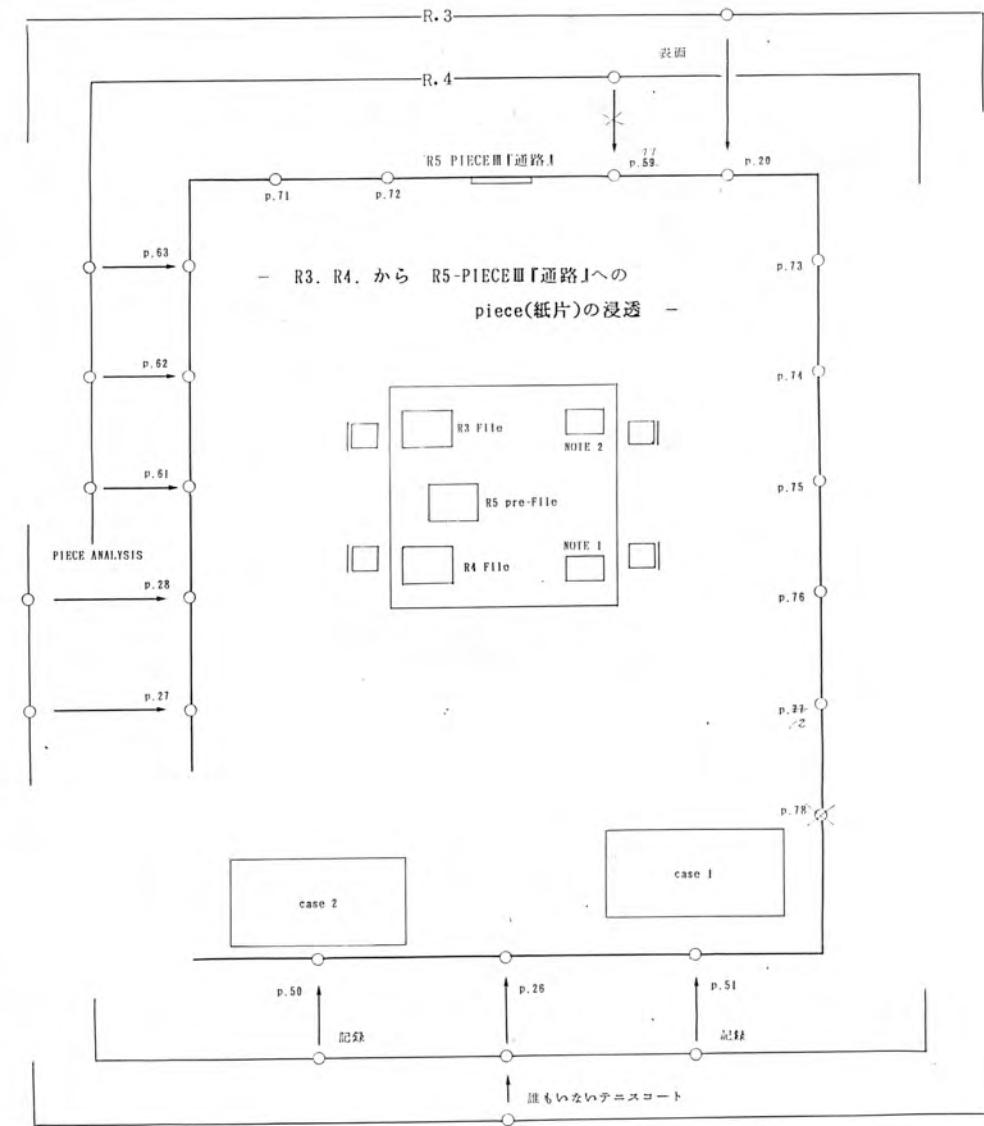
note(下部ノート) : 線(乱れ、もつれ、途切れた線)の生成
(考えの断片、言葉の切れ端、感情の揺れ etc)

『Note』(タイプ) : 線を際立たせる動き

< Piece > : 「紙片」上で線を交錯させる動き

PIECE-ANALYSIS

for R5-PIECEⅢ『通路』

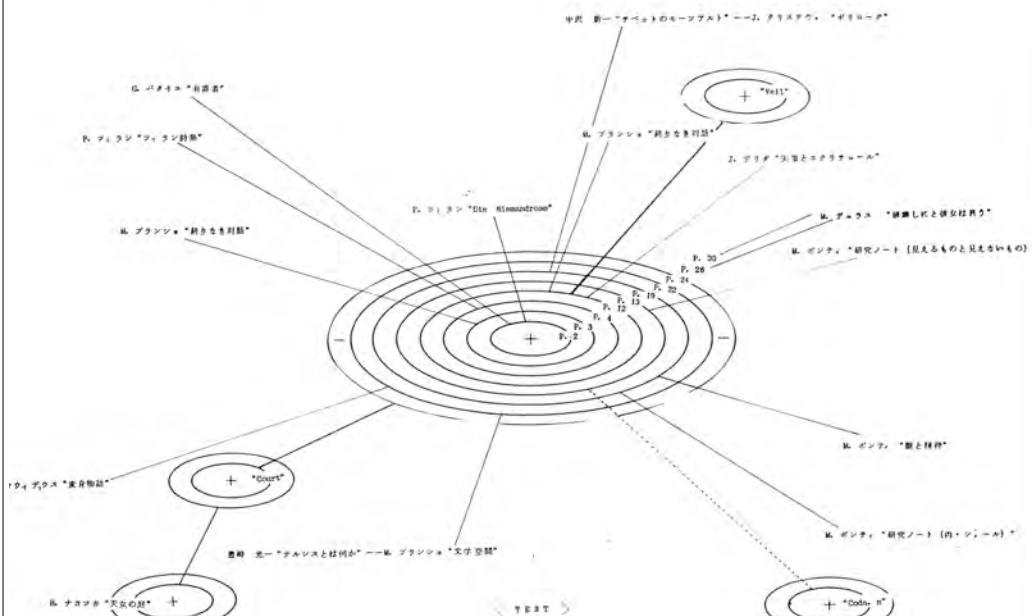


PIECE-ANALYSIS for R?



ptotal: 。。。、西日本の人口／面積

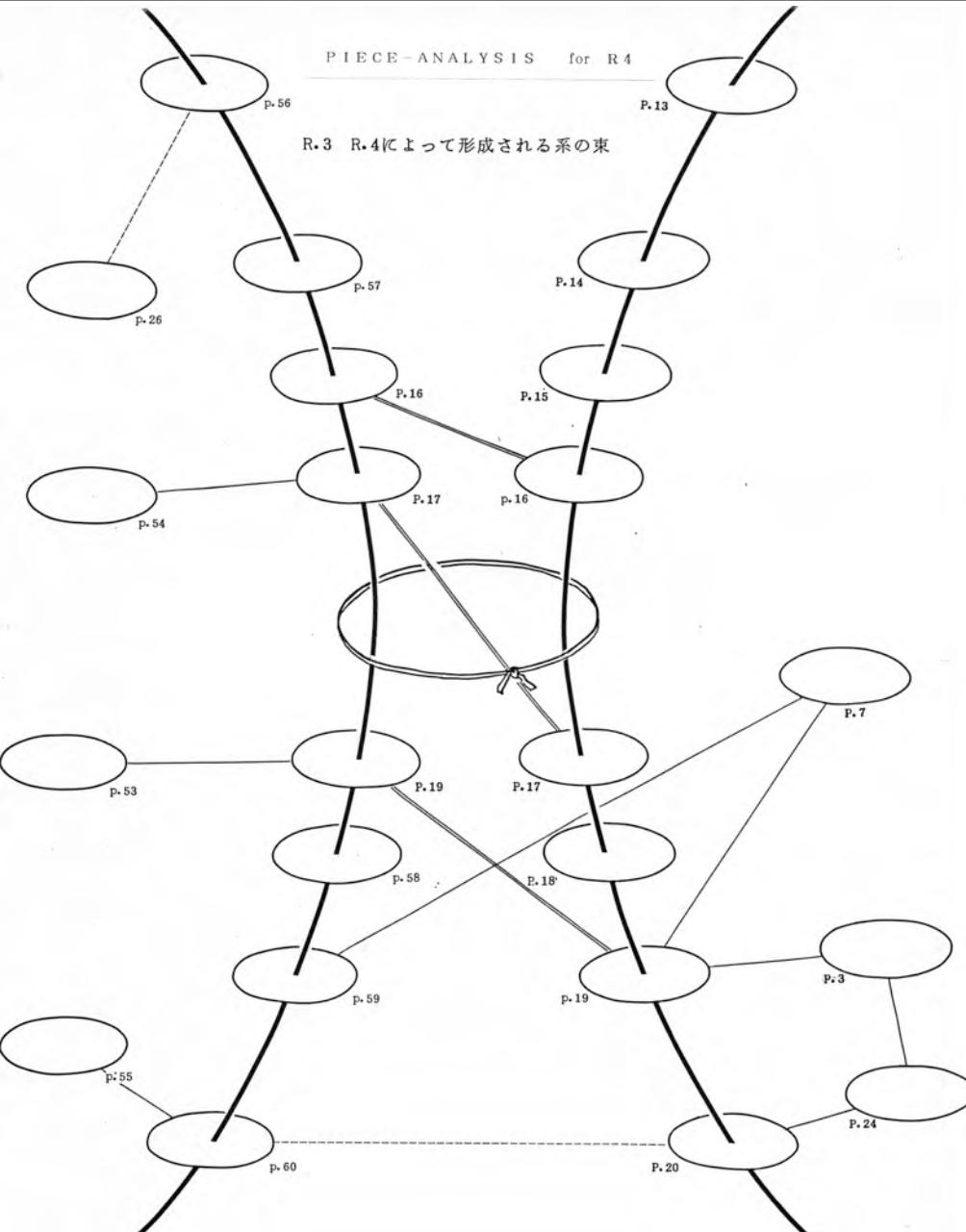
PIECE



P. 28 P180

PIECE-ANALYSIS for R

R.3 R.4によって形成される系の束



PIECE-ANALYSIS 3

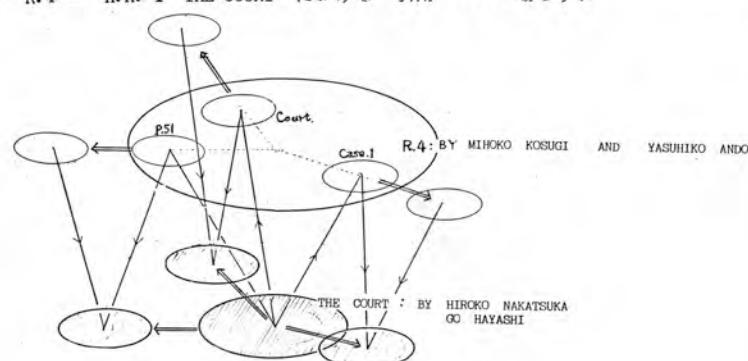
《系》とその《束》

P. 61

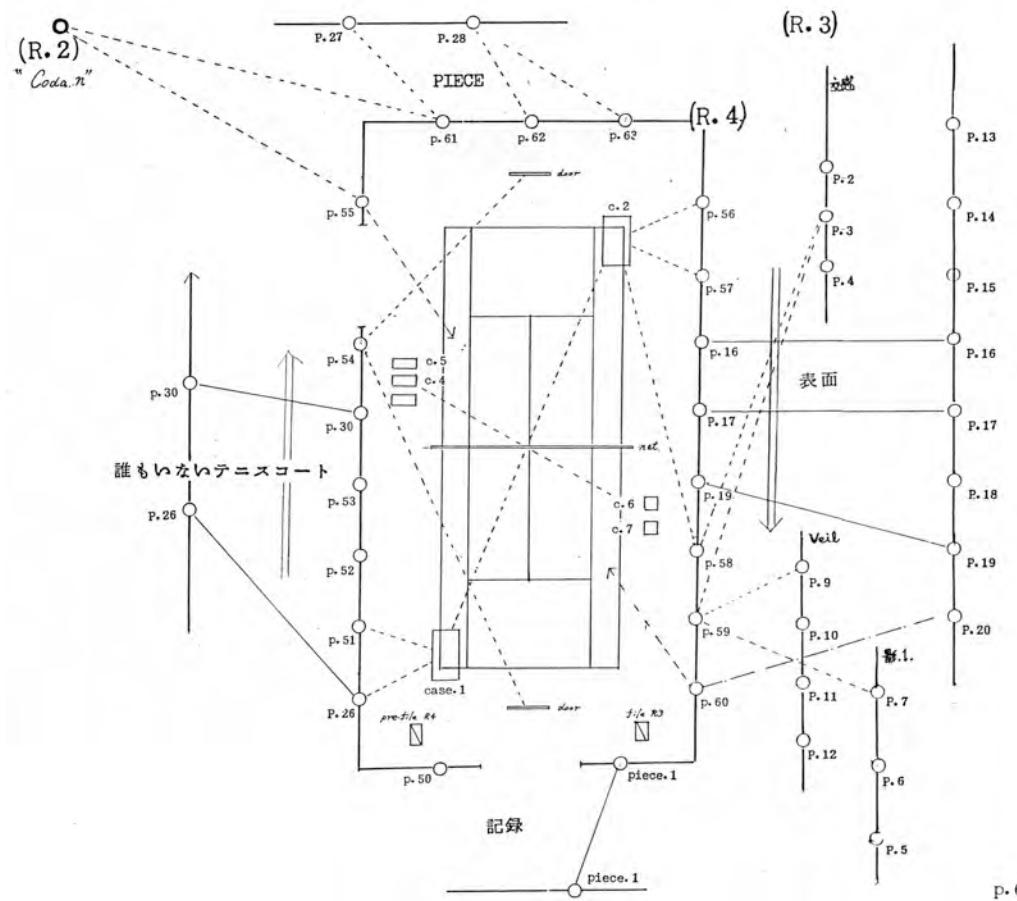
PIECE-ANALYSIS 4

PIECE-ANALYSIS for R4

場／コート R.4 — n.h. 1 “THE COURT” における 引用・・・・・ 場のずれ



場・R.4-R.3-(R.2) の相互浸透



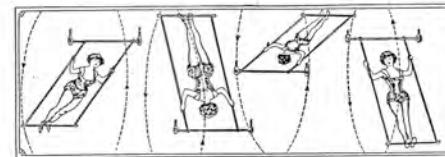
PIECE-ANALYSIS 5 —破片—

PIECE-ANALYSIS for R4

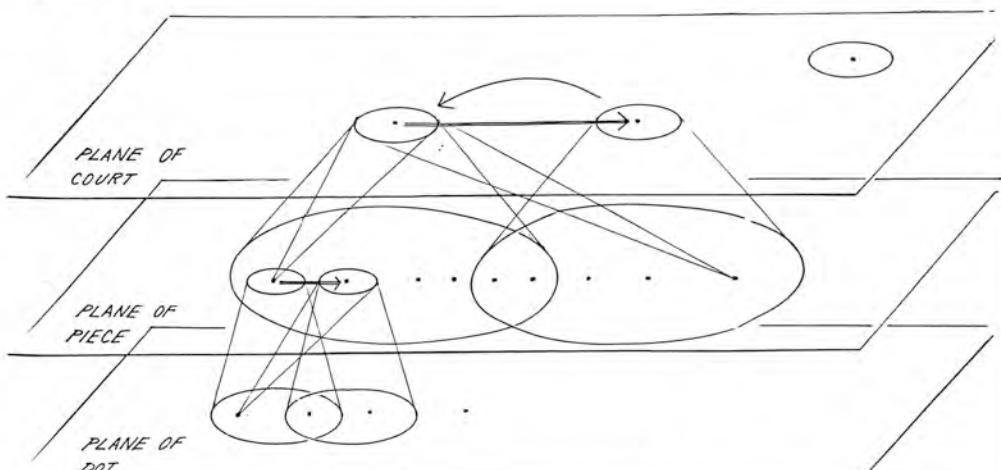
相互に隔てられた破片

「断片」一名詞、だが動詞（不在だけれども）の力をもつ名詞、翌け目、残片なしに碎かれたもの、断続の停止が変転を止めず、それどころか変転を、変転に属す断続の中で、引き起こすとき………（ム・ブランショ）

〈破片〉…… はばはばにされた身体 わたし・あなた Court Piece
関係の中斷



〈破片〉化



精片の差異／失取りされた基質構造

同一Pieceを含む二つのCourt

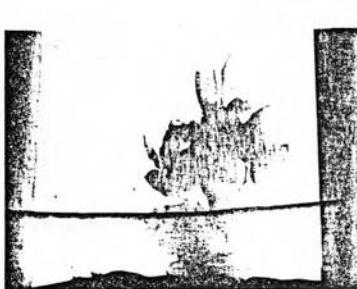
sets—Piece "PIECE"



イメージは事物の二重性だ。草木つづりもの、すぐという形の内面的な複数のうちに複いなおしつづ草く復い、それがイメージである。

イメージはこの二重性においてイメージである。

それは対象の複数ではなく、初めの二重化であり、この二重化が次に事物が比喻的に表わされると可能にするのだ。



Veil・復い

一枚のVeil・復い

われわれに死の影を夢想させる
この一枚のVeil・復い

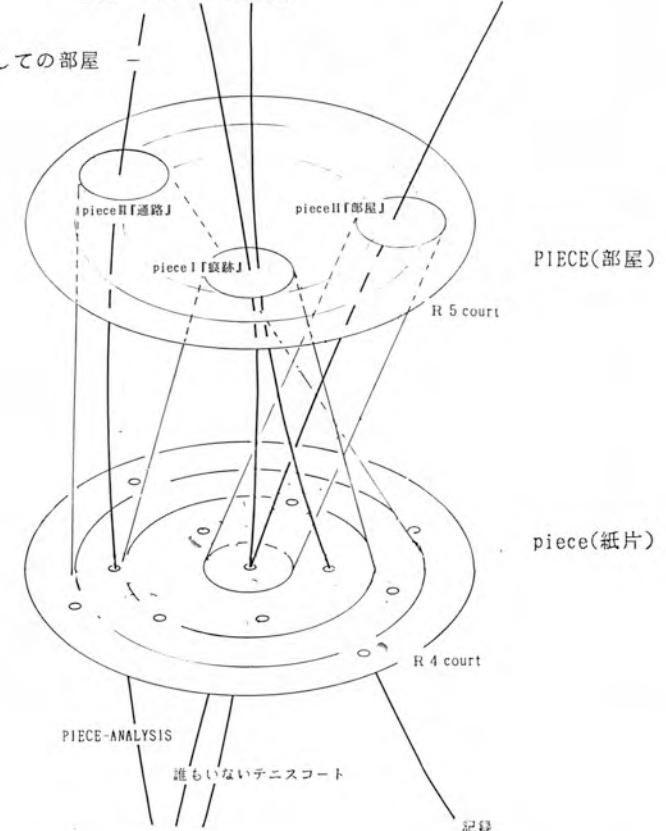
一枚のVeil・復いから、われわれを遠く隔てさせる
ある距離

われわれに死の影を夢想させる
この一枚のVeil・復いから
われわれを遠く隔てさせる
ある距離

PIECE-ANALYSIS

for R 5 “通路”

- piece(破片)としての部屋



Piece / Court

Piece : 破片、断片。(動詞で)接合する。
... 1片、1部分、1区画、1編の作品、
etc. ...
ここでは、R3court, R4court, R5 PIECEⅢ.
におけるpiece(紙片) さらに R5court
における三つのPIECE(部屋)。

Court : 閉じられ、囲み込まれた場所。
閉域。... テニスコート、中庭、路地裏、
法廷、宮廷 etc. ...
ここでは、R5court「通路」更にR1~R4court。

